

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年12月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672000058
法人名	社会福祉法人 尚徳会
事業所名	グループホーム 遊花里
所在地	鹿児島県指宿市山川岡児ケ水1211番地 (電話) 0993-35-0220
自己評価作成日	令和元年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・社会福祉法人が経営する特別養護老人ホームを母体とした併設施設であり、法人嘱託医・看護師による医療面の連携・協力体制や同一敷地内の併設事業所である、デイサービスセンターやホームヘルプステーション、在宅介護支援センター等との連携・応援体制も整っている。

・天気の良い日は、ホームの東側にある「きずな公園」でお茶を飲んだり散歩をするなど気分転換を図りながら、楽しく穏やかな生活が送れるよう支援している。

・定期的に家族に発送する「ゆうかりメール」は、個々の様子を記載し個別の便りとなっており、家族からの評判も良い。

・入所者一人ひとりの思いや意思決定など支援するなかで、毎月、入所者・職員合同の会議を持ち、それぞれの意向をお伺いし支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は母体が社会福祉法人で、隣接して特別養護老人ホーム・在宅介護支援センター・デイサービスセンター・ヘルプステーションが併設され、給食センターもある。

・防災訓練は法人全体で実施し、連携・協働協力体制が構築されている。
・協力医療機関や常駐の看護師との24時間医療連携体制が整っており、家族や職員も安心が得られている。

・地域行事には法人マスコットと共に参加したり、法人行事の秋祭りやリハビリ大会・花火大会などで地域住民の参加も多く交流も活発である。

・管理者は常に利用者中心の支援をモットーに安心・安全に日常生活が送れることを職員もワンチームで協力しサービス向上に努めている。

・職員は管理者に相談しやすく、職員間もお互いを尊重しながらケアに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はご家族も確認できるよう玄関に掲示し、ミーティングの時はみんなで復唱している。また、勉強会も行いながら認知症介護の理解を深め、人権を尊重した基本的ケアを実践している。	全員で意見を集約した事業所理念を玄関に掲示している。利用者が望む生活を常に考え、理念を共有し、人権を尊重した基本的ケアを実践している。ミーティングで振り返り、勉強会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	徳光苑のゆるキャラ「TOKKOU君」と「IMOKOちゃん」と一緒に、地域の行事に参加したり、施設の行事などへの参加を呼びかけ、地域交流を図っている。またデイサービスと連携して、毎年、地域の小中学校や高校との交流や、地域のボランティアとの交流を推進している。	自治会に加入し、地域行事に参加したり施設行事の敬老会・花火大会等、多くの地域住民の参加がある。踊りや弾き語りギター演奏・コーラス・吹奏楽等のボランティアの受け入れや小中高校の文化祭や運動会へ出かけ交流している。さつまいもやスイカ、漁協からのハマチの差し入れ等があり、日常的に交流し、相談事にも応じている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人が主体となり、家族や地域住民を対象とした勉強会や地域交流文化講演活動を開催し、地域とのつながりを強めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、ホームの生活状況やひやり・はっと、地域交流行事、外部評価の結果等の報告を行い、委員からの意見をサービスの向上に役立てている。	定期的に会議を開催し、利用者の状況、行事予定と実施状況、ヒヤリハットと対策、外部評価や行政からの実地指導などを報告し、意見交換している。災害時の充実した備蓄を進める計画など、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や市のグループホーム連絡協議会への参加で情報を提供していただき、運営上の疑問点など相談している。	市担当者とは直接出向き、書類更新や申請、事故報告などを行ったり、アドバイスをもらうなど日頃から連携や協力関係を築いている。市主催の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を開催し、ケアの内容を確認している。また年2回内部研修を行い、身体拘束ゼロへの理解を持ち、拘束をしないケアを実践している。	年2回、言葉を含む身体拘束をしないケアについて内部研修を行い、3ヶ月に1回、様々なテーマで勉強会をしている。日中玄関の施錠はせずに離床センサーの使用や赤外線センサーを設置し危険防止に努めている。不穏時部屋の配置を工夫したり、話し相手になったり、散歩するなど利用者に寄り添った支援をしている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の年間計画に虐待の防止についてのテーマを設け話し合い理解に努め、虐待のないより良いケアを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全体勉強会やユニット毎のミーティングのテーマにあげて理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書・重要事項説明書を用いて説明し、不明な点がないかお聞きし、納得していただくよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回入所者との「意見交換会」を行い、不備や苦情、意見などを発言する機会を設け、遠慮なく申し出られる雰囲気作りに努めている。 ・契約時、苦情相談窓口のある事を説明し、玄関に意見箱を設置している。 	利用者と月1回の意見交換会で意見や要望を聞いている。家族からは面会時に積極的に声かけしたり、毎月写真添付で生活状況報告や3ヶ月毎に「遊里花メール」や行事参加毎に意見を聞く機会を設けている。買い物や外食などの希望を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、管理職会議を開催し、各事業所の管理者から現場の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。 ・毎月、ユニットミーティングを開催して意見を交換し、会議録を提出、報告している。 	<p>毎月のミーティングや日々の関わりで意見や提案を聞いている。年3回の副理事長との個人面談もある。管理者は出された意見を管理職会議で報告し、介護用品の改善や勤務調整など働きやすい環境づくりを心がけている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人事考課で自己評価及び管理職評価システムを採用し、スキル向上に取り組んでいる。 ・職員の資格取得や自己研鑽のための各種研修への参加や、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。 		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の内部研修計画書を作成し、それに沿って実施している。 ・外部研修後は復命書を作成、ミーティングの中で発表し、皆で共有できるようにしている。また、外部からの講師を招いての研修も実施している。 		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・地区のグループホーム連絡協議会に入会し、他施設の職員と意見交換や研修会への参加等、交流する場を設け、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	支援センターと連携し入所希望者の家庭訪問を実施し、困っていることや不安を聞いて相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所予定者の家族と面会し、これまでの経緯を聞き、家族の気持ちに寄り添いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合は、法人全事業所の管理職会議の中で、他事業所の管理者と情報を共有して必要な支援を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と職員の関係作りを進める中で、本人の思いを知ることにも努め、その思いを尊重し支援している。また、支援する側でなく利用者本人が選択できるような声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>個別に現在の生活状況などを書いた手紙を「ゆうかりメール」という形で定期的にお送りして、本人の状況を報告したり、面会時には本人の意見を伝えたり、家族の要望やご意見をお聞きし共に入居者を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の理解や協力に基づき、自宅や希望された場所への外出を支援している。 ・電話や手紙で交流ができるよう守秘義務に注意しながら働きかけている。 	<p>入居時に家族や友人知人との日常の会話から思いを把握している。家族の協力で馴染みの理美容院や墓参り・外食・買い物などに出掛けている。電話や手紙での交流もサポート支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は入所者が孤立しないよう間に入り、挨拶や会話を補助し、気持ち良く支え合えるような支援に努めている。また天気の良い日は、敷地内の公園に行き、テーブルを囲み皆さんと一緒にお茶を飲み楽しんでいる。 		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>医療機関や併設の施設へ移られた利用者の所へ面会に行ったり、その家族にも立ち寄って頂いたり相談にのり支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月意見交換会を実施し、入所者の希望など聞く機会を設けている。また、職員間で連携しその都度本人の言動を記録し、何を望んでいるのか職員全員で考え共有している。	月1回の利用者との意見交換や日々の関わりで希望や要望を聞いている。困難な場合は生活歴や家族に相談したり日常の表情や行動から、本人本位に検討し支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴など家族や支援センターから情報を伺っている。また、一緒に生活していく中で、少しずつ信頼関係を築き、色々なこととお聞きし、気づいた事の情報交換をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや心身状態を記録し本人の全体像の把握に努め、職員間で情報共有し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・職員が記録した個別の介護日誌と利用者や家族の思いを聞き、介護計画に取り入れている。</p> <p>・毎月の介護支援経過、3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。</p>	<p>入所時の情報、家族や主治医から事前に情報を得て3ヶ月に1回、職員・栄養士・理学療法士など関係者と担当者会議を持ち現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリング、見直しは6ヶ月で、日々の記録やリハビリメニューなどの変化等、必要時、見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・入所者の日々の様子や状態の変化、気づきなどを記録し、ケアの内容や介護計画の見直しに活かしている。</p> <p>・ユニットミーティングや申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況、その時々状況に合わせて、受診の介助や入・退院の送迎等を支援している。医療連携体制を活かし、嘱託医や看護師、栄養士との連携を図っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>小・中学生の介護体験の受け入れや総合防災訓練を行い、出火時の初期消火・避難誘導等について消防署の方の指導をいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・週2回、囑託医の往診がある。また、24時間体制で連絡ができるようになっており、緊急な対応もできている。</p> <p>・本人、家族が選ぶ医療機関がある場合は、そこに受診できるよう協力している。</p>	<p>本人・家族の希望を聞き、法人母体の医療機関が主治医となって週2回の往診で健康管理している。結果は緊急性の場合、当日電話で家族に報告し、その他面会時に報告している。皮膚科などの専門外来受診は家族同伴である。24時間医療連携体制で適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の看護師、または併設施設の看護職員と連携しながら健康管理を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入所者の入院に対し、家族と連絡を取りながら病状の把握を行っている。入院した際は介護サマリーを作成し、安心して治療を受けられるよう情報提供を行っている。また、入院先の面会に行き経過を伺い主治医に報告し、早く退院ができるよう連携を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した入所者に対しては、家族と話し合いを持ち、事業所で出来ることを十分に説明するとともに、嘱託医へ相談して状態に応じた対応を行っている。</p>	<p>重度化し看取りの必要性が生じた場合の対応の指針があり、入居時に説明し同意書もとっている。状態変化時、段階的に説明し、急変があった場合、主治医から説明し、家族と方針を共有し、事業所でできる支援をしている。家族の希望に応じて、協力機関や施設と連携体制で支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い、実践力を身に付けている。不明な点はその都度、看護師へ指導を仰ぎ理解するよう努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月2回実施している訓練では火災だけでなく、地震・津波なども想定し行っている。 ・緊急連絡網を作成し、法人全体で夜間招集訓練を行っている。 ・地区の公民館と災害時緊急避難指定施設として使用できるように申し合わせができています。 	<p>法人全体で年2回消防署立会で防災訓練を実施している。利用者や地域住民の参加もある。法人全体の緊急連絡網も作成している。事業所独自に月2回火災・地震・津波を想定しての訓練を実施している。隣接する特別養護老人ホームの備蓄倉庫に水・缶詰・食料等備蓄している。オムツや医療用備品もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>更衣・排泄時はカーテンやドアを閉めるようにし、一人ひとりのプライバシー・自尊心を傷付けないよう配慮した声掛けや対応をしている。</p>	<p>マニュアルがあり、法人全体の研修会や資料を配布して勉強会を実施している。利用者が一人になれる時間を大切に、声かけも基本的に苗字で呼んでいる。入室時はノックし、トイレ排泄時はトイレの外で待つなど、利用者を尊重しながら対応している。自由に洋服も選択し、化粧やおしゃれを楽しんでいる。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活のあらゆる場面で、本人の意思、意向を聞き尊重し、支援を行っている。また、意思疎通が難しい方には表情や日頃の様子などから本人の思いを察して支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その時々の入所者の意向や体調を確認しながら、個々のペースに合わせた生活をして頂けるよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>起床後の洗顔や整髪、身だしなみを整える支援を行っている。入浴の際は、本人がその時の気分に合わせて洋服選びができるよう支援している。また行事や外出の際は、お化粧品などおしゃれをして出かけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園があり、収穫した野菜を調理して食卓にお出しして一緒に食事を摂っている。 ・利用者の食の好み嚥下機能の状態を把握し、食事の時間を楽しく過ごせるよう支援している。 	月1回利用者と「意見交換会」があり要望を栄養士に伝え献立に活かしている。菜園で採れた旬の野菜やつわの皮剥きをして、美味しく食べている。代替食、ソフト食など、嚥下機能に応じた形態で自己摂取している。行事食や誕生会には家族も参加し、そめん流しや外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士の指導の下、栄養管理している。 ・毎日、食事摂取量と水分摂取量を記録して職員全員が情報を共有している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後に義歯の洗浄や歯磨きの声掛け、誘導を行い口腔ケアに努めている。 ・義歯の不整合や口腔内に異常が見られた時は、協力医療機関の歯科医に往診を依頼している。 		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、入所者の排泄サインを見逃さないように気を付け、声掛け・トイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンと一人ひとりのサインを把握し、トイレ誘導し排泄支援している。夜間はポータブルトイレ等を利用者に応じて使用し、失禁を減らす取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、意向を踏まえ適度な運動を促している。 ・食事量、水分量を確認しながら、摂取の声かけを行い自然排便へ繋げている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調把握をしながら、本人の希望する入浴支援を行っており、楽しんで入浴できるよう努めている。	基本的に週2～3回の入浴支援で、入浴剤やみかんの皮浴などを楽しんでいる。希望があればいつでも入浴可能である。体調に応じて清拭や足浴の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の活動を通して生活のリズムを作り、安眠につながるよう支援している。 ・昼寝や就寝時間は一人ひとりの生活習慣やその時の意向に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬リストを作成し、薬の説明書と一緒にファイルしており、いつでも確認できるようにしている。また、症状が変化した時は看護師に報告し、必要に応じて受診する等の体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意なこと等を把握し、その日の気分や各自の能力に合わせた作業や、嗜好品を楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンケートや会話の中から行きたい所をお聞きし、家族の協力もあり外出を行っている。(墓参り・地域行事・花見・ドライブなど) 天気の良い日は散歩をしたり、敷地内の公園遊歩道にある「吾妻屋」で食事やお茶を飲んで過ごしている。 	年間行事計画に沿って花見や池田湖等へのドライブなどで外出している。日常的には散歩したり、敷地内にあるきずな公園に設けられた「吾妻屋」で食事をしたりお茶会をしている。そめん流しも家族参加で出かけている。家族の協力で墓参りやドライブ・買い物・外食などに出かけている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入所者、家族との相談の上、それぞれの希望に応じて金銭管理の支援をしている。 買い物に行った際は、入所者自身が品定めし、支払いを出来るよう支援している。 		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家族からの電話を取り次いだり、自ら電話を利用される方もいる。 家族から荷物が届いたとき等、お礼の電話やお手紙を書かれる方もいる。 		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節の花々・壁面構成など、女性職員の細やかな配慮により柔らかな雰囲気作りを入所者と一緒に行っている。また、その時期の旬の食材を取り入れて四季を感じてもらっている。	共用空間は天井が高く採光もよく、加湿器や空気清浄機で室温湿度も調整され過ごしやすい。テーブルには生け花教室で其々生けた季節の花が飾られ、絵画や手作り作品等が掲示されている。大型テレビが置かれソファでゆっくり寛げるよう工夫されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールのソファークつろぎの場になっており、気の合う入所者同士で思い思いに過ごしている。また独りになりたい時は、玄関ホールにテーブルと椅子を置き自由に過ごせるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスやソファ、テレビを持ってこられたり、家族の写真や自分の作品など好みの物が飾られており、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>居室はベットや洗面台・床頭台・クローゼットなどが設置され、寝具類は持ち込みである。使い慣れた箆笥やソファとテーブル、ワゴンの中に化粧品・テレビ・手作り誕生カード・位牌・電気で点灯する蝋燭や線香・遺影・家族写真等が飾られ、その人らしい居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下には転倒防止の手すりが設置されている。 ・床はバリアフリーとなっており、利用者一人ひとりの身体機能に合わせた動きができるようにしている。 		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない